

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスきらら筒井		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 3日		～ 令和7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28名	(回答者数) 28名
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 24日		～ 令和7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童が主体的な活動を考えて実現できること。	・児童の興味や得意なことに注目し、積極的に活動に参加できるように一緒に企画を考えている。(企画会議) ・企画案はクラブ活動として実現できるようにしている。 職員が顧問として企画、実行、振り返りまで行っている。 (実験クラブ・イラストクラブ・調理クラブ・工作クラブ)	・職員自身も強みを生かした活動になっており児童も職員も主体的に参加できている。今後は仲間作りや異年齢の関わり、役割や協力を意識した活動するために、系列事業所との交流の機会を設けたいと思う。
2	・特性理解とともに発達課題の獲得についても理解を深めている。(必要に応じて「7つの発達課題」を参考にし、育ちに寄り添う支援を考えている)	・問題行動や不適切な言動などの背景を理解するために、現在どの発達段階にあるのかを職員で検討・共有している。必要に応じて1対1の対応から始め、2人関係、3人関係へと進めていく。(代弁、交渉、対等な関係、客観性など)	・職員の専門性を生かし、家族支援(子育て支援)に繋げていきたい。(所外研修の参加の継続)
3	・支援が固定化されていない。	・祝日、長期休みにいろいろな活動を企画している。 (公園、体育館、電車、公共施設、買い物などの外出行事) 製作、調理、実験、レク、映画、カフェなどの室内行事 お花見、海、紅葉、雪遊びの季節の行事) ・事業所内でのアルバイト体験→通帳を作成し、ポイントに	・年齢や学年に応じて社会参加を意識できる活動を取り入れていきたい。 (職場体験やボランティア活動など)

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域交流の機会が少ないこと。	・外出行事として企業見学を行うことはあるが、地域交流のために積極的に発信する機会がなかった。 交流を望まない保護者の声もある。	・近隣の職場見学(ホームセンター、スーパーなど)や事業所の行事(バザーなど)に外部の方を招待するなどを企画してみる。
2	・保護者に向けて研修等の機会がないこと。	・現在は面談等で個別に相談に応じている状況である。 ・保護者同士の交流の機会として年1回参観行事を	・全事業所として今後、保護者向けの研修を考えていく意向がある。
3	・保護者同士の交流の機会が少ない。	・年1回の参観行事を行い保護者同士の交流の機会としているが、まだ全員が参加できていない。 ・交流を望まない保護者の声もある。	・参観行事に限らずレクリエーションなどの企画を考える。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	放課後等デイサービスきらら岡井					公表日	令和7年 3月 31日		
						利用児童数	令和7年 2月 28日 28名	回収数	28名
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	28	0	0	0	それぞれに合った部屋があって良い。 いろいろなスペースがあり十分だと思います。 各活動に合わせて利用できるスペースがある。 走って遊べるようで良かった。		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	26	2	0	0	十分な人数で対応して頂いている。 個別対応もしてもらっている。 多くの方が良いと思います。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	28	0	0	0	子どもたちにわかりやすく配慮している。 理解しやすいよう掲示物が工夫されている。 整理整頓されている。 勉強が行いやすい。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	28	0	0	0	いつも清潔で明るい。 体調や気持ちに合わせて環境に配慮してもらっている。 集団レクができるのが良い。		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等にに応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	27	1	0	0	専門の資格者がいるので安心している。 子どもの興味に合わせて支援している。 子供が伸びるような声がけ見守りをしている。 特性に合った対応や会話をしている。		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	26	1	0	1	具体的な支援計画を立て支援してもらっている。 合っていると思う。		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	28	0	0	0	面談を通して保護者の意見も取り入れている。 子どもの成長に合わせて支援計画を立てている。 勉強へ取り組む力や向上心が上がるようなプログラムがあればいいと思う。	個別対応として、中学生のテスト勉強やきらら漢字 検定の活動を行っています。	
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	27	1	0	0	5領域に沿って具体的に支援計画を立ててもらっている。 本人に合う支援設定だと思います。		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	28	0	0	0	クラブ活動などの支援が充実している。		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	27	0	1	0	年齢学年などの状況に合わせて支援している。 クラブ等子ども達が楽しく学ぶことができる。 固定化とはどのような状態か、固定化されると不都合 がありますか？		
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	7	4	8	9	今のままで問題ないと思います。 きららグループ内での交流があれば保護者も安心 できるかもしれません。	きららグループ内での行事（交流）がありますが今 後は機会を増やしていきたいと思っています。	
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	28	0	0	0			
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	28	0	0	0	面談や電話で現状や計画について伺っています。		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	22	3	0	3	きめ細やかに連絡があります。 家族、家庭のことも含め支援に繋がってもらっています。		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	26	2	0	0	帰りの送迎時に詳しく説明して頂いている。 連絡帳、送迎時、関わった先生方からフィールド バックがありわかりやすい。		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	24	3	0	1	気軽に相談が出来ると思います。		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	26	2	0	0	とてもよくサポートして頂いています。 先生方それぞれの視点で支援してもらっている。		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	20	4	1	3	参観行事はとても良いと思います。(ただ冬の期 間は辛いです) 参観行事により様子がわかり保護者の方とコミュ ニケーションをとる機会となった。	参観行事については秋、冬以外にも検討してい きたいと思っています。	
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	25	1	0	2	きちんとした体制ができていると思います。 方が一、何かあった際には相談窓口が設けら れていて相談しやすいと思います。		
20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	26	1	0	1				

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	26	1	0	1	ブログで活動の様子をしています。 インスタグラムで楽しい活動の様子が伝わる。 事前の連絡もありがたいと思います。	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	28	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	28	0	0	0		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	28	0	0	0	各訓練が子どもたちの支援に繋がっていると感じます。	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	28	0	0	0		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	25	2	0	1	トラブルについて迅速に対応してもらっています。	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	28	0	0	0	子どもの安心できる居場所になっています。 心配しながら行くことがなくなった。 職員の方皆優しい きらさんが大好きです。 親しさを感じられるほど安心してしています。	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	28	0	0	0	友だちに会えるのが楽しみ。 きららの日だから早く行きたい。帰宅後話をしてくれます。 ゲームをしたくて行きしぶりはあるが自分のためになっていることは理解しています。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	28	0	0	0	様々な角度から支援していただき大変満足しています。 きららさんにめぐりあえて良かったです。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスきらら筒井		公表日		令和7年 3月 31日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		5	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		5				
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		5		ロッカー、机、課題テーブル、本棚を設置している。 運動スペース、課題・学習・作業スペースがありイラストやボードにて視覚的支援をしている。 スロープや手すりを設置している。	一部、廊下と部屋に4センチ程の段差がある。 (基本的に児童は使っていない部屋)	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		5		運動・集団レクと、学習・自立課題など着席しての活動のスペースに分けている。 調理活動は台所を使用している。 部屋・玩具等の消毒や換気を行っている。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		5		クールダウンのために別屋を使用している。 聴覚過敏や距離感に配慮が必要な場合やテスト勉強など、必要に応じて事務室を使用している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		5		個別会議、検討会議、事例検討を行っている。 職員が児童のクラブ活動の顧問になり、活動の立案や会議、報告を行っている。 全員がリーダーとして計画と振り返りを行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		5		所内会議にて内容を共有し、改善策を検討し本部に報告している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		5		職員の活動希望を常に全体で話し合っている、その結果児童のクラブ活動や委員会、会議に繋がっている。(イラストクラブ・手芸クラブ・実験クラブ・調理クラブ・工作クラブ・アルバイト体験など)	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			5	現在検討中。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		5		毎月の所内学習会、管理者研修の共有(年6回)、虐待防止に関する研修(年6回)、身体拘束実践研修を行っている。 外部研修(家族相談士 救命講習会)に参加している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		5		令和7年3月に公表予定。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		5		定期的にあセスメントを行いニーズ、支援と照らし合わせている。 必要に応じて児童との面談を行い、保護者と話し合っている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		5		専門性を生かした支援を提供できるように全員がリーダーとして活動計画を立案し、個別支援計画の作成に参加している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		5		個別支援会議にて共有している。ミーティングでは支援内容についての質疑応答の時間を設けている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		5		相談支援事業所からの基本情報、医療機関からの情報を用いている。 必要に応じて「7つの発達課題」を用いている。 本人の得意分野に注目し個別活動に繋げている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		5		「本人支援」については学年や個別、得意・不得意に応じて具体的な支援を設定している。 (クラブ活動・学習支援・アート活動) (5領域)	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		5		児童発達支援管理責任者、週のリーダー、クラブ活動顧問、課題活動の担当者などいろいろな立場から立案に関わるようにしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		5		室内外行事、外出活動、集団レク、児童のクラブ活動や企画会議、お手伝い活動、パソコン活動など自主的に活動できるようなプログラムを考えている。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		特性や学年に応じて個別活動を計画している（学習・アート活動・自立課題）毎週の集団レクの他にクラブ活動では役割や協力の経験ができるように小集団の活動を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		毎朝のミーティングにて支援内容の共有や児童の情緒的配慮について話し合い、連携ができるようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		ヒヤリハット・事故についての共有、不穏状態の内容確認を含めた振り返りを行っている。 支援の振り返りは翌日の朝ミーティングにも行う。（意見質問など）	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		当日の活動ノートの記入、個人の療育記録の作成を行っている。 毎月個別検討会議を行い「本人支援」「家族支援」に繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的にモニタリング、個別支援会議を行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	5			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		個別の活動スケジュールを児童と話し合いながら計画している。（発達課題の獲得「交渉」の支援を含む）クラブ活動の参加を自分で決めている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		児童発達支援管理責任者が参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		児童発達支援管理責任者が担当者会議に参加している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		学校・保護者から年間や月間の配布物を頂いている。 送迎時や電話にて必要な情報を共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		相談支援事業所を媒介として情報共有に努めている。 （担当者会議に参加）	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5			今年度は対象児童がいない。 今後は情報提供していきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5			今後に向けて検討が必要。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5			担当者会議にて情報の共有はあるが、今後交流について検討が必要。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		個人の連絡帳に活動内容や様子を記入している。 （全職員が担当） ミーティング、個別会議にて共通理解に努めている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5			必要に応じて個別に対応しているが、参加できる研修について体制を整えていきたい。 前段階として「家族向けチェックリスト」（困り事等について）アンケートを行った。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時に説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		面談や電話にて要望等をお聞きしている。 必要に応じて児童と面談を行い、本人の気持ちを保護者にお伝えしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		面談、電話、書面にて説明し、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		児童発達支援管理責任者が面談や電話にて対応している。 資格取得後、継続研修に参加している。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		参観行事を開催し交流の場を設けている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		苦情・要望の受付担当者、解決責任者等について契約時に重要事項説明書にて説明している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		ホームページ、ブログ、インスタグラムにてお伝えしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		掲示物、ブログ等は同意書に基づき対応している。書類関係は鍵付き書櫃にて保管している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		必要に応じて文字化、絵カード、イラスト等で配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5			今後に向けて検討が必要。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		契約時に説明している。各委員会にて実践研修を行っている。(リスクマネジメント委員会・災害対策委員会・感染対策委員会)	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		定期的に避難訓練を行い、委員会にて共有している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		相談支援事業所からの基本情報や保護者のアセスメントシート記入、面談にて共有している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		契約時の聞き取りやフェイスシートへの記入をお願いし、個別に対応している。診断書を提出していただいている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		委員会にて安全計画を共有し、事業所で避難訓練を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		避難訓練内容を報告・共有している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハット報告書を作成し、リスクマネジメント委員会にて共有・検討している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		虐待防止委員会の研修、事業所内の研修を行っている。虐待防止チェックリスト表の記入と振り返りを行っている(年6回)	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		契約時に身体拘束・行動の制止について説明している。身体拘束適正化委員会にて研修を行い、身体拘束を行わない支援について理解を深めている。		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスきらら筒井（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和7年2月3日		～ 令和7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数) 1名
○従業者評価実施期間	令和7年2月24日		～ 令和7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・感覚統合運動遊びを取り入れている。	・感覚が統合されて成長していくプロセスを理解し具体的な活動を話し合っている。 (第1段階…基礎感覚 第2段階…姿勢・眼球運動のコントロール 第3段階…ボディイメージの形成、運動コン)	・系列事業所の職員同士で学習会を行い支援内容を深める。可能な範囲で児童の交流も進めていきたい。
2	・特性理解とともに発達課題の獲得についても理解を深めている。 (必要に応じて「7つの発達課題」を参考にし、育ちに寄り添う支援を考えている)	・問題行動や不適切な言動などの背景を理解するために、現在どの発達段階にあるのかを職員で検討・共有している。必要に応じて1対1の対応から始め、2人関係、3人関係へと進めていく。(代弁、交渉、対等な関係など)	・職員の専門性を生かし、家族支援(子育て支援)に繋げていきたい。(所外研修の参加の継続)
3	・児童が主体的な活動を考えて実現できること。	・児童の興味や得意なことに注目し、積極的に活動に参加できるように朝の会で話し合っている。 ・放デイのクラブ活動を参考にできるように関わっている。 (実験クラブ・イラストクラブ・調理クラブ・工作クラブ 手芸クラブ・ギネスチャレンジクラブ・推し活クラブ)	・職員自身も強みを生かした活動になっており児童も職員も主体的に参加できている。放デイと一緒に活動できる時は積極的に異年齢の交流をしていきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・令和6年12月より1名の受け入れを始めたばかりであるため課題や改善、工夫などについては今後検討していく。		
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	放課後等デイサービスきらら筒井（児童発達支援）
------	-------------------------

公表日 令和7年 3月 31日

利用児童数 令和7年 2月 28日 1名 回収数 1名

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	1					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	1					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	1					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	1					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	1					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	1					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	1					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	1					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	1					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	1					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。				1		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	1					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	1					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1					
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	1					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	1					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	1					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1					
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1					
20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1						

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	1				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	1				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	1				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	1				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	1				
	29	事業所の支援に満足していますか。	1				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスきらら筒井（児童発達支援）				公表日	令和7年 3月 31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		個別活動と集団活動に合わせて対応している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		ロッカー、机、課題テーブル、本棚を設置している。 運動スペース、課題・学習・作業スペースがありイラストやボードにて視覚的支援をしている。 スロープや手すりを設置している。	一部、廊下と部屋に4センチ程の段差がある。 (基本的に児童は使っていない部屋)	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		運動・集団レクと、学習・自立課題など着席しての活動のスペースに分けている。 調理活動は台所を使用している。 部屋・玩具等の消毒や換気を行っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		クールダウンや聴覚過敏、距離感に配慮が必要な場合など、必要に応じて事務室を使用する。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		支援のリーダーを決め活動プログラムを計画している。 今後、個別会議、検討会議、事例検討を行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		児童発達支援の評価表は今回が初めてであるが、今後所内会議にて内容を共有し、改善策を検討し本部に報告していく。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		職員の活動希望をミーティングにて話し合っている。 面談にて個別に意見を聞いている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5	現在検討中。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		毎月の所内学習会、管理者研修の共有（年6回）、虐待防止に関する研修(年6回)、身体拘束実践研修を行っている。 外部研修（家族相談士 救命講習会）に参加している。 令和7年3月に公表。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		児童発達支援の受け入れが初めてのため初回のアセスメントを行いニーズ、支援と照らし合わせている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		専門性を生かした支援を提供できるように活動計画を全員で話し合い、児童発達支援計画の作成に参加している。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		個別支援会議にて共有している。ミーティングでは支援内容についての質疑応答の時間を設けている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		相談支援事業所からの基本情報、医療機関からの情報を用いている。 必要に応じて「7つの発達課題」を用いている。 本人の得意分野に注目し個別活動に繋げている。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		「本人支援」については年齢や個別、得意・不得意に応じて具体的な支援を設定している (5領域の項目)		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		児童発達支援管理責任者、リーダー、課題活動の担当者などいろいろな立場から立案に関わるようにしている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		室内外行事、外出活動、集団レク、お手伝い活動、運動・自由遊び、おやつ作りなど自主的に活動できるようなプログラムを予定している。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		特性や年齢に応じて個別活動を計画している（製作・アート活動・自立課題）集団活動では運動やミニゲームを取り入れ役割や協力の経験ができるようにしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		毎朝のミーティングにて支援内容の共有や児童の情緒的配慮について話し合い、連携ができるようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		ヒヤリハット・事故についての共有、不穏状態の内容確認を含めた振り返りを行っている。 支援の振り返りは翌日の朝ミーティングにも行う。（意見質問など）	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		当日の活動ノートの記入、個人の療育記録の作成を行っている。個別検討会議を行い「本人支援」「家族支援」に繋げていく。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		児童発達支援の受け入れを始めたばかりでまだモニタリングは行っていない。今後、定期的にモニタリング、個別支援会議を行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		児童発達支援管理責任者が参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		児童発達支援管理責任者が担当者会議に参加している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		12月の利用開始前に関係機関との担当者会議に出席し内容共有をした。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5			家庭の事情により就学についての共有等は未定。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5			児童発達支援の受け入れを始めたばかりでまだ連携の機会がない。今後、検討していく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5			児童発達支援の受け入れを始めたばかりでまだ交流の機会がない。今後、検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		個人の連絡帳に活動内容や様子を記入している。 (全職員が担当) ミーティングにて共通理解に努めている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5			児童発達支援の受け入れを始めたばかりのため今後、検討していく。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時に説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		担当者会議にて要望等をお聞きしている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		説明し同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			児童発達支援の受け入れを始めたばかりのため今後、児童発達支援管理責任者が面談にて対応していく。資格取得後、継続研修に参加して。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		児童発達支援の受け入れを始めたばかりのため今後、検討していく。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	要望の受付担当者、解決責任者等について契約時に重要事項説明書にて説明している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	ホームページ、ブログ、インスタグラムにてお伝えしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	掲示物、ブログ等は同意書に基づき対応している。書類関係は鍵付き書棚にて保管している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	必要に応じて文字化、絵カード、イラスト等で配慮していく。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		今後、検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	契約時に説明している。 各委員会にて実践研修を行っている。(リスクマネジメント委員会・災害対策委員会・感染対策委員会)	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	定期的に避難訓練を行い、委員会にて共有している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5	相談支援事業所からの基本情報や保護者のアセスメントシート記入、契約時の面談にて共有している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	契約時の聞き取りやフェイスシートへの記入をお願いし、個別に対応している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	委員会にて安全計画を共有し、事業所で避難訓練を行っている	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	契約時に説明している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	毎月のミーティングにてヒヤリハット・事故等を共有している。報告書を作成し、リスクマネジメント委員会にて共有・検討していく。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	虐待防止委員会の研修、事業所内の研修を行っている。 虐待防止チェックリスト表の記入と振り返りを行っている(年6回)		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	契約時に身体拘束・行動の制止について書面で説明している。身体拘束適正化委員会にて研修を行い、身体拘束を行わない支援について理解を深めている。		

事業所名

放課後等デイサービスきらら筒井

支援プログラム

作成日

令和7年

2月

7日

法人（事業所）理念		1. 私達は、ご利用者様を第一に終生、安心に明るく暮らしていただける住まいを提供し幸せを追求します。 2. 私達は、働くことを通じて謙虚に学びあい、育ち合い、生きがいと誇りを持てる職場作りを目指します。 3. 私達は、医療・福祉・家族の皆様と関わりを持ち、介護・福祉を通じて地域社会に貢献します。					
支援方針		子どもの「得意」「大好き」の気持ちを大切に自主的な活動に発展させながら、役割や協力の経験・仲間作りや異年齢交流ができる支援を行う。 2つの自尊感情（基本的自尊感情・社会的自尊感情）を理解し、共有体験を重ねることで、自分と他者を大切にできる支援を目指す。 本人のペースでできることを身につけ、社会参加を目指した支援を行う。					
営業時間		9時	30分から	18時	30分まで	送迎実施の有無	あり なし
支援内容							
本人支援	健康・生活	・毎日の検温、手指消毒 ・基本的な生活習慣の確立（低学年：食事、排泄、衣服の着脱、挨拶 高学年：挨拶、時間を守る、食事マナー、整理整頓、ルールを守る、服装や頭髪を整えるなど） ・清掃、お手伝い活動による生活スキルの向上（掃除機掛け、ゴミの分別、テーブル拭き、食器洗い 洗濯干しとたたみ、アイロンかけ、リサイクル活動、裁縫など） ・学年に応じた保健指導（生理、歯磨き、清潔面、身だしなみ、プライベートゾーン） ・調理活動（菜園活動、献立、買い物、調理器具の扱い、安全面などSSTによる社会的訓練）					
	運動・感覚	・感覚統合を促す運動遊び（第1段階～第5段階までのプロセスを理解：基礎感覚、姿勢・眼球運動のコントロール、ボディイメージの形成、手指の機能分化、学習や運動の達成） 粗大運動：トランポリン、平均台、バランスボール、トンネル、サーキット、大型積み木ジャンプ 微細運動：箸、ボタン留め、ハサミなど道具の操作、手芸活動、調理活動、工作 ・集団レクリエーション（音楽と運動遊び、ダンス表現、卓球、脳トレ、体幹トレーニング） ・パソコン活動 ・外遊び ・体育館での運動 ・イヤーマフの貸し出し					
	認知・行動	・活動スケジュールの立案の練習（主体性を持つための活動） ・学習支援（時計、お金、宿題、テスト勉強、予算に応じた買い物） ・行動の障害への予防及び対応等（適切な行動のためのリスク場面の話し合い、クールダウンの場所や方法を決めて実践する） ・季節への興味、関心（外出：お花見、海や水遊び、りんご狩り、雪遊び） ・集団レクリエーション（ルールのあるゲーム、チーム対抗） ・感触遊び（粘土、スライム、水） ・ブロック遊び ・おやつ作り（混ぜる、捏ねる、計量）					
	言語コミュニケーション	・視覚的支援（手順書、イラストで掲示） ・特性に応じたコミュニケーション（会話と用紙記入） ・レクリエーションの司会進行（事前に台本を作成） ・SST課題学習（イラストの表情や場面に適切な言葉を考えるなど） ・集団レクリエーション（言葉探しゲーム、絵しりとり、ジェスチャーゲーム、伝言ゲーム、他己紹介など） ・児童の委員会・クラブ活動の企画会議（司会、書記など役割の経験）					
	人間関係社会性	・発達課題の獲得を理解した支援（言葉での交渉のやり取り、代弁する、対等な2人遊び、3人遊びでの仲間外しなど） ・アタッチメントの形成（1対1での応答的対応にて信頼関係を築く） ・集団レクリエーションやクラブ活動での異年齢交流（ルール、役割や協力の経験…企画会議、司会係、準備係） ・地域交流（ゴミ拾い活動、職場見学、外食体験、買い物体験、アート活動外部展示） ・不登校児童支援（安心できる居場所づくりと得意な活動で繋がる経験…おやつ作り、インタビューごっこ、ゲーム実況、地図作り、個別の部屋対応）					
家族支援		面談の他に連絡帳、電話、送迎時に様子をお伝えし、共通理解（きょうだいについても）を持ちながら支援をする。自由参観や親子参観行事にて直接活動を見ていただいたり保護者同士の交流の機会を設ける。			移行支援		学校や関係機関と事業所との担当者会議に参加し情報共有を行う。 放課後児童会との情報共有を行う。
地域支援・地域連携		相談支援事業所との支援の連携を図る。 職業体験にて地域交流を行う。			職員の質の向上		毎日朝と帰りにミーティング有、委員会に所属し定期的に会議開催、各委員会の内部・外部研修に参加、毎月の学習会、個別支援検討会に参加、毎月の管理者研修有、個別で資格の継続研修に参加
主な行事等		ランチレク おやつ作り 夏祭り 外出（ボウリング、カラオケ、外食、買い物、電車体験、駅探検、りんご狩り、プラネタリウム見学、消防署・警察署見学、映画館、図書館、美術館、公園、海など）クリスマス会、餅つき、雪遊び 年3回の避難訓練（地震・火災・風水害）					

事業所名

放課後等デイサービスきらら筒井(児童発達支援)

支援プログラム

作成日

令和7年

2月

7日

法人(事業所)理念		1. 私達は、ご利用者を第一に終生、安心に明るく暮らしていただける住まいを提供し幸せを追求します。 2. 私達は、働くことを通じて謙虚に学びあい、育ち合い、生きがいと誇りを持てる職場作りを目指します。 3. 私達は、医療・福祉・家族の皆様と関わりを持ち、介護・福祉を通じて地域社会に貢献します。					
支援方針		感覚が統合されて成長するプロセス(第1段階～第5段階)を理解した活動を考え、一緒に楽しみながら支援を行う。 発達課題の獲得について理解を深め、ご家族とともに育ちに寄り添う支援を目指す。 事業所内や関係機関と連携し、チーム力を強め多様な支援を目指す。					
営業時間		9時	30分から	18時	30分まで	送迎実施の有無	あり なし
支援内容							
本人支援	健康・生活	・毎日の検温、手指消毒 ・基本的生活習慣の確立(挨拶、排泄、衣服の着脱、石鹸で手洗い、ガラガラうがい、靴と荷物整理) ・清掃、お手伝い活動(テーブル拭き、玩具片付け) ・おやつ作り(清潔面、安全面、道具の使い方) ・食事のマナー(着席、姿勢、スプーン、フォーク、食器運び) ・構造化を意識した掲示(トイレ、手洗い場など)					
	運動・感覚	・感覚統合を促す運動遊び(第1段階～第5段階までのプロセスを理解:基礎感覚、姿勢・眼球運動のコントロール、ボディイメージの形成、手指の機能分化、学習や運動の達成) 粗大運動:トランポリン、平均台、マット、バランスボール、トンネル、サーキット、大型積み木ジャンプ、ボール投げ 微細運動:箸、ボタン留め、ハサミなど道具の操作、 工作(糊付け) ・集団レクリエーション(音楽と運動遊び、リズム体操、ストップゲーム) ・イヤーマフの貸し出し					
	認知・行動	・製作活動(粘土、絵の具・糊使用…見本を見て同じように作る) ・ままごと遊び(食器や食べ物の適切な使い分け・道具の使い方) ・季節への興味、関心(外出:お花見、海や水遊び、りんご狩り、雪遊び) ・集団遊び(かくれんぼ、宝探し、かるた、クイズ、ごっこ遊び) ・感触遊び(スライム、水) ・ブロック遊び ・おやつ作り(混ぜる、捏ねる、お皿やスプーンの数 計量)					
	言語コミュニケーション	・朝の会、帰りの会(挨拶や活動内容の確認) ・視覚的支援(絵カードで掲示) ・集団レクリエーション(言葉探しゲーム、絵しりとり、ジェスチャーゲーム、伝言ゲーム、自己紹介など) ・自由遊び(ままごと遊び、見立て遊び…役割に合った会話のやり取り) ・絵本、紙芝居					
	人間関係社会性	・発達課題の獲得を理解した支援(言葉での交渉のやり取り、代弁する、対等な2人遊びや3人遊びでの関係作り) ・アタッチメントの形成(1対1での応答的対応にて信頼関係を築く) ・自由遊び(お店屋さんごっこ、ままごと遊び…設定や役割を決めて遊ぶ) ・集団レクリエーション(音楽に合わせた動きでの一体感)					
家族支援		面談の他に連絡帳、電話にて様子をお伝えし、共通理解(きょうだいについても)を持ちながら支援をする。自由参観や親子参観行事にて直接活動を見ていただいたり保護者同士の交流の機会を設ける。			移行支援		園や関係機関と事業所との担当者会議に参加し情報共有を行う。
地域支援・地域連携		相談支援事業所との支援の連携を図る。			職員の質の向上		毎日朝と帰りにミーティング有、委員会に所属し定期的に会議開催、各委員会の内部・外部研修に参加、毎月の学習会、個別支援検討会に参加、毎月の管理者研修有、個別で資格の継続研修に参加
主な行事等		ランチレク おやつ作り 夏祭り 外出(外食、買い物、電車体験、駅探検、りんご狩り、プラネタリウム見学、消防署・警察署見学、図書館、公園、海など) クリスマス会、餅つき、雪遊び 年3回の避難訓練(地震・火災・風水害)					